

野ウサギの森へ ようこそ

2022年9月25日

樹人の会



森の現況

北総鉄道の東松戸駅と松飛台駅のほぼ中間に位置し、北総鉄道の南に接している約1.8haの森です。北側には“紙敷石みやの森”、東側には“紙敷みなみの森”に接しており、北総鉄道が開発される前は相当に広い樹林地であったと思われます。

当初の森は広葉樹高木主体で、一部にサワラ及び杉林が存在し、全体的に真竹の進入を受け、部分的には歩行困難なほど繁茂していました。林立する樹木も長年人の手が入っていなかったため、枯損木や倒木が多く、太陽光が高木に妨げられ下草は比較的少ない状態でした。

このような荒廃した森を計画的に森全体に進入した竹の除去、観察・作業道の整備、枯損木・倒木の除去、雑草木の刈払・伐開作業等を精力的に実施した結果、林床に太陽光が届くようになり“キンラン”、“ギンラン”、“シュンラン”、“ホウチャクソウ”、“トンボソウ”が所々に群生し、来森する方々を驚かせています。

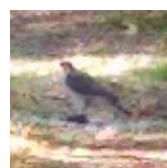
生息する小動物は、溜フンが確認されていることから“タヌキ”の存在が想定され、“野ウサギ”は以前に幾度か目撃されています。



また、“アオダイショウ”などヘビが目撃され、“野ネズミ”を飲み込んでいる“アオダイショウ”も目撃されていることから小動物も豊富な様子が想像できます。

鳥類も多く飛来し、“シジュウカラ”、“ヤマガラ”は勿論のこと、珍しい“ルリビタキ”や“トラツグミ”も確認でき、“オオタカ”が“ヤマバト”？を食している姿や“フクロウ”が杉林で目撃されています。

また、森には多くの樹木が自生していますが、なかでも直径72cmで、大地にしっかりと根を生やし、真っ直ぐに伸びている“クスノキ”を森のシンボルツリーとしています。



森の植生調査

2016年に樹木調査を行いました。樹径（直径）10cm以上の樹木は、948本が確認でき、多いのはシラカシ164本(18%)、イヌシデ151本(16%)、ヒサカキ126本(13%)、スギ109本(11%)、サワラ101本(11%)でした。また、貴重種は、クスノキ（シンボルツリー）、ウワミズザクラ、ヤブニッケイ、サワフタギ、アキグミ、ネムノキなどです。



森の活動

“2014年度里やまボランティア入門講座”の受講者(12期)で2015年2月に結成した「樹人の会」が、“紙敷石みやの森”及び“紙敷みなみの森”のご理解・ご協力により活動拠点の“野うさぎの森”が決定し、2015年10月に森の踏査を行ったのが始まりです。現在、会員18名により森の活動を行っています。

森の地権者とは、森の活動記録の“イチニイ通信”を送るなどしているほか、樹木の伐採等については当会に任せいただくなど良好な関係で活動しています。

なお、定期活動日時は、第1水曜日・第3水曜日・第4日曜日の10時からです。

保全活動の目的

- 現在、森に生息する小動物や植生する植物を保全し、可能な限り森を維持する。
- 都市部の貴重な自然を多くの方に楽しんでいただくために、森の安全を確保し、多くの方が来森出来るようにする。

活動の方針

森での活動は、踏圧による表土の硬化と野草類の損傷及び小動物の生息域の消滅を防止するため、集会エリアやキッズエリア以外の進入は極力避ける。このため、竹柵を設置することにより立ち入り出来ないようにする。

森に堆積した落ち葉は、土壌中の微生物を保護するため、安全確保が求められる“キッズエリア”以外は除去しない。

森での作業員及び来森者の安全確保のために枯損木・倒木の伐採、枯れ枝や掛かり枝の除去を行う。特に、チェーンソーでの伐木作業では、講習修了者以外には行わない。



野うさぎの森保全計画図



エリアの区分

集会エリア：会員のミーティングや来森者との打合せ及び各種作業にも活用する。

キッズエリア：子どもたちの遊び場で遊具も使用可能です。

植物保護エリア：“キンラン”、“ギンラン”、“シュンラン”等の貴重植物を保護する

ために竹等で囲う。

竹林整備エリア：竹林整備と定めて景観を考慮し整備し、その他の区域の竹は除去する。

ヤブ保存エリア：“紙敷みなみの森”との境界に残存するヤブは、生態系保護のために手を付けない。

森の施設

資機材保管庫：樹人の会で保有する資機材及び会員の装備等を保管

集会・観察用施設：打ち合わせ用テーブル・イス、植物観察用ベンチ

ビオネスト：枯葉・枝の集積

キッズエリアの遊具：バドミントン(自称 国際基準)、ハイジのブランコ、丸太渡り、ハンモック、竹ポックリ、竹切り台



ナラ枯れの状況

カシノナガキクイムシ（以下「カシナガ」）の被害により、2021年度にはフラスが25本見付き、コナラなどにトラップを設置するとともに、ネットの巻き付けは12本行いました。また、伐倒した木は松戸市や松戸里やま応援団が行ったものを含めコナラ5本となりました。伐倒木の中には5メートルより高い場所でカシナガの穿入孔が見つかっており、対策の困難さがうかがえました。



今年はネットの巻き付けを8本行いましたが、去年はネットの合わせ部分を直接ホッチキス止めし脆弱であったため、ネットをテープで貼り合わせ、折り曲げたうえでホッチキス止めするとともに、ネットの上部にはトラップを設置するなどの工夫をしたところ です。

現在、フラスが見つかったのは28本、半枯れ、枯死木は6本ありますが、昨年あったフラスが今年は見られないものなど、対策の効果がうかがえるものもあります。

森で作成したトラップの特長は、上部に垂直に羽根を付け多くの虫を捕らえられるようにしたこと、カブトムシやクワガタなどが被害にあわないように、虫の受け口に網などを付けています。また、カシナガの捕獲状況が確認できるように、網付きの特性バケツで観察しています。



植 樹

森の樹木は、ナラ枯れによる被害のほか、2019年の台風15、19号ではスギ、サワラを中心に幹折れや根返りなどの被害のため15本を伐採しました。また、森には老木が多く毎年枯損木が発生しているので、森の再生をするには植樹が必要になっています。

昨年6月には千葉明德学園の森でヤマハギの苗の植栽作業に6名が参加し、植樹体験をしました。

これまでも、森のドングリをプランターに植え、育った苗を自主的に森の適当な場所に植えてきましたが、場所が分からなくなるなど、植樹の効果に未知数のところがありました。

このため、今年は新たな試みとしてLet's体験の参加者とキャリア教育で来た旭町中学校2年生に、植樹体験としてクヌギの苗35本を森の東側の低地に3メートル間隔で植樹を行いました。



区画された場所に植樹することで、管理がしやすく、これからの成長が楽しみです。

森の助成事業の活用

森を維持・管理するには、資機材は欠かすことができませんが、会費で賄うには負担が重くなるので、自治体や企業が実施している助成事業を活用することは非常に有効な手段になります。森では、林野庁が実施している“森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業”を活用したほか、今年からは(一財)千葉県環境財団が行っている“ちば環境再生基金助成事業”の助成を受け、有効に活用しています。

・森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業【林野庁】

地域住民等による森林の保全管理活動等の取組を支援。

地域環境保全タイプの区分で支援を受けていました。

侵入竹除去・竹林整備 (2016～2018年)

里山林保全・竹林整備 (2019年)

里山林保全・台風被害木処理 (2020年)

・ちば環境再生基金助成事業【(一財)千葉環境財団】

千葉県の貴重な自然を保全し、環境を再生する団体の環境活動の助成。

環境の保全の区分で支援を受けています。(2022年)

野うさぎの森の自慢

資機材保管庫

森の恵みの活用

安全重視の活動

「野うさぎの森」の歌

資機材保管庫

保管庫を設置するに当たり、①広い保管スペース、②屋根は「片流れ」ではなく、「切妻」に、③ドアは「引き戸」にすることにこだわり、2016年に間口2間、奥行1.5間、広さの3坪の資機材保管庫を約2か月で完成しました。保管庫は、樹人の会の資機材はもちろん、会員ごとの保管箱も確保されており、重い荷物を持つことなく活動に参



加することができ、快適に活動ができるようになりました。

完成から6年経過しましたが、何の支障もなく森の活動に役立っています。

また、保管庫には竹製の雨どいも設置し、雨水の利活用を目指しましたが、竹材の老朽化によって道半ばですが、活用できればSDGsに相応しい施設になるものと期待しています。

作業・観察道と案内板

作業・観察道は竹柵で明確にするとともに、来森者が迷わないための案内板や動植物の発見等の看板も設置しています。また、看板は子どもたちに親しんで貰えるような“タヌキ”や“野ウサギ”などのイラストを付けました。



森の行事

お稲荷さんへの初詣

年の最初の活動日に栗林の斜面にある地主さんの“お稲荷様”に油揚げとお神酒をお供えし、森の活動の安全祈願をしています。

栗の木の剪定

春先に野うさぎの森に隣接する栗林の木を地主さんの意向に沿って、“紙敷石みやの森”と“紙敷みなみの森”の皆さんと一緒に栗の木の剪定をしています。

森の資源の有効活用

集会場の長椅子



門柱・竹柵



森のベンチ



案内板の支柱



竹柵



丸太渡り



椎茸の滑木



荷物置き場



ターフの支柱



利用を待つ杉材



知恵の輪



クモの巣



松飾り



組紐編みプレート



安全重視の活動

安全講習会の実施

森の活動を安全に行うための「安全講習会」を毎年、講師を招くなどして実施しています。

外部講習会への参加

“林業・木材製造業労働災害防止協会”が実施する「チェーンソーの特別教育」には7名、「刈払機作業安全衛生教育」には1名が参加したほか、“千葉里山センター”などが主催する外部研修会にも積極的に参加するようにしています。

オープンフォレストの取組

オープンフォレストのパンフレットは、東松戸中央公園、東松戸ゆいの花公園、八柱霊園で配布し、近隣のマンションにはポスティングするなどの広報を行いました。また、小学校で森に来た子どもが母親とママ友とともに訪れるなどのリピーターも多く見られました。その結果、来場者は昨年が135名、今年は168名となりました。

野うさぎの森活用団体(グループ)と支援

- ・ 東松戸小学校 2 年生
- ・ 旭町中学校 2 年生 (キャリア教育)
- ・ 新松戸南小学校読書応援団
- ・ Let's 体験 (中学生～20 代向けボランティア体験講座)
- ・ まつどあそびラボ
- ・ 子どもっとまつど
- ・ スマイルぷらす松戸
- ・ 共育ステーション地球の家—キノコ観察会

松戸東小学校 2 年生



新松戸南小学校読書応援団



Let's 体験



旭町中学校 2 年生



まつどあそびラボ



キノコ観察会



野うさぎの森

詞曲: 藤田史郎

♩ = 110

1. の う さ ぎ の も り は ど ん な 森 も り シ
 2. の う さ ぎ の も り は た の じ ゃ い な シ
 シンボルは大木のクスノキサ
 樹人の会のメンバーが
 森の自然を守ります
 倒木を片づけて道を整備し
 竹やぶを切り開き光を入れた
 お陰で森は明るくなり
 春にはキンランギンランも花盛り
 子供達キッズの遊び場さ
 樹人の会のメンバーが
 子供の安全守ります
 竹ポックリにブランコにハンモックもあるよ
 ノコギリで竹を切って工作しよう
 野うさぎの森は素敵だな
 野うさぎの森は松戸の宝

1. 野うさぎの森はどんな森

シンボルは大木のクスノキサ
 樹人の会のメンバーが
 森の自然を守ります
 倒木を片づけて道を整備し
 竹やぶを切り開き光を入れた
 お陰で森は明るくなり
 春にはキンランギンランも花盛り

2. 野うさぎの森は楽しいな

子供達キッズの遊び場さ
 樹人の会のメンバーが
 子供の安全守ります
 竹ポックリにブランコにハンモックもあるよ
 ノコギリで竹を切って工作しよう
 野うさぎの森は素敵だな
 野うさぎの森は松戸の宝